

念ずれば花ひらく

荒尾市立荒尾第三中学校便り
令和5年2月20日(月)
第11号 文責:森川孝巳

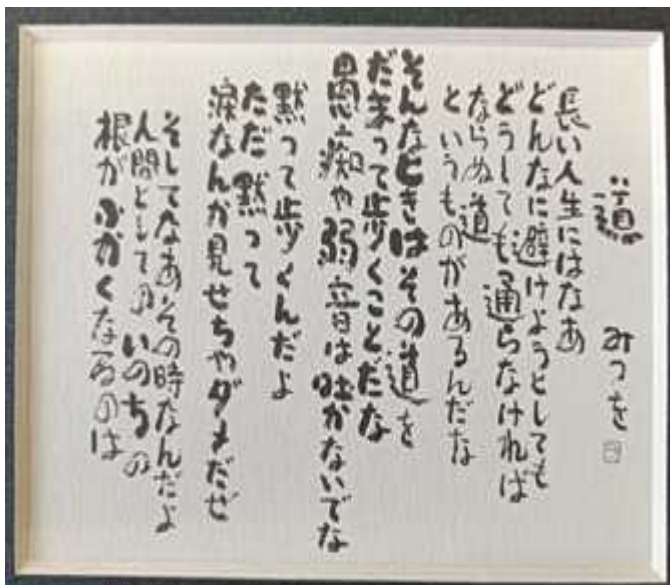
「道」

自分には自分に与えられた道がある。天与の尊い道がある。
どんな道かは知らないが、他の人には歩めない。
自分だけしか歩めない、二度と歩めぬかけがえのないこの道。
広い時もある。せまい時もある。のぼりもあれば、くだりもある。
坦々とした時もある。かきわけかきわけ汗する時もある。
この道が果たしてよいのか悪いのか、思案にあまる時もある。
なぐさめを求めたくなる時もある。
しかし、所詮はこの道しかないのではないか。
あきらめろと言うのではない。
いま立っているこの道、いま歩んでいるこの道、ともかくもこの道を休まず歩むことである。
自分だけしか歩めない大事な道ではないか。
自分だけに与えられている、かけがえのないこの道ではないか。
他人の道に心をうばわれ、思案にくれて立ちすくんでいても、道は少しもひらけぬ。
道をひらくためには、まず歩まねばならぬ。
心を定め、懸命に歩まねばならぬ。
それがたとえ遠い道のように思えても、
休まず歩む姿からは必ず新たな道がひらけてくる。深い喜びも生まれてくる。



<大阪市福島区 大開公園>

松下電器(現パナソニック)創設者の松下幸之助さんの著書「道をひらく」にある「道」という詩です。3年生は、あとわずかで中学校を卒業します。そして、それぞれ自分の道を進んでいきますが、この先「本当にこの高校でよかったのかな」「〇〇さんは頑張っているけど、自分はこれでいいのかな」など、様々な迷いや悩み、壁にぶつかることでしょう。私自身も、「今までやってきたことは、本当に正しかったのかな」と、自問自答することがあります。そんな時、私はこの詩を読み返し、迷った時こそ「自分を信じて前に進む」ようにしています。人生は、やって後悔することより、やらずに後悔することの方が圧倒的に多いのです。道は自分でひらくのです。



荒尾市男女共同参画メッセージ作品

入賞おめでとう!

2/4(土) 荒尾市男女共同参画フォーラムで表彰式が行われました。

本校から2名の生徒が最優秀賞と優秀賞に入賞しました。

<最優秀賞> 白谷 綺希(1-5)

「伝えよう 自分の個性

認め合おう みんなの個性」

<優秀賞> 丸山 貴弘(1-2)

「認め合い 助け合い つくっていこう

『自分らしく』が 輝く社会」